

平成 30 年度第 1 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録

開催日	平成 30 年 4 月 26 日 (木)	時間	13 時 45 分 ～14 時 15 分	場所	市立伊丹病院 くすのき講堂
出席者	<p>委員： 常岡委員長(伊丹市医師会会長)、末岡委員(宝塚市医師会会長)、藤末委員(川西市医師会会長)、黒田委員(尼崎市医師会会長)、森田委員代理として飯田委員(伊丹市歯科医師会副会長)、千葉委員(伊丹市薬剤師会会長)、清水委員(兵庫県伊丹健康福祉事務所長)、辻委員(伊丹市消防局長)、坂本委員(伊丹市健康福祉部長)、酒井委員(宝塚市健康福祉部長)、荒崎委員(川西市健康増進部長)、岡野委員(学識経験者)、中田委員(伊丹市病院事業管理者)、飯石委員(市立伊丹病院病院長)、関委員(市立伊丹病院副院長)、大迫委員(市立伊丹病院看護部長)、米倉委員(市立伊丹病院事務局長)</p> <p>委任状： 木村委員(三田市医師会会長)、田中委員(三田市健康福祉部参事)</p> <p>オブザーバー： 筒井(市立伊丹病院副院長)、三木(診療部長)、森田(診療部長)、太田(歯科口腔外科主任部長)、萩原(放射線診断科主任部長)、勢旗(医療技術部室長)、上田(薬剤科長)</p>				
議題内容	<p>■ 開会のごあいさつ</p> <p>本日はお忙しい中、平成 30 年度第 1 回市立伊丹病院地域医療支援委員会にお越しいただきましてありがとうございます。日頃は、患者さまの紹介を通じ、私たち医師会会員や多くの医師が市立伊丹病院にお世話になり感謝申し上げたいと思います。</p> <p>本日は、地域医療支援病院としての市立伊丹病院のこの 1 年間の活動をご報告いただきまして、これからの地域医療連携をいかに高めていくのか、その連携を通じて、市民のみなさまに安心できる医療体制を提供していくために議論していきたいと思ひます。</p> <p>■ 委員紹介</p> <p>席次順に紹介 出席者過半数を超えているので本会は成立することを報告。</p> <p>本委員会は「公開等および傍聴についての要綱」第 2 条ならびに第 3 条による公開となっており開催案内したが傍聴希望者は無。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本委員会は議事録作成のため録音している。 ・会議録の記載内容回 <ol style="list-style-type: none"> 1.開催の日時および場所 2.出席した委員、臨時委員、専門医委員および関係人の氏名 3.議題およびその内容 4.議題の要旨 5.議決事項 6.その他委員長が必要と認める事項 <p>討議の中での発言内容、発言者の氏名は記載無し。</p> <p>第 18 条により 会議録は市立伊丹病院ホームページにて公開。</p> <p>■ 議事署名人の指名について(2 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常岡委員長より指名 飯田委員、辻委員に依頼したい。 両者共に了承。 <p>■ 議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 紹介患者に対する医療提供について <ul style="list-style-type: none"> 資料 1-① 1-② 1-③ 1-④ 1-⑤に従って説明 				

- 資料 1-① 紹介率 79.8% 逆紹介率 100.7%で、承認要件を満たしている。
- 資料 1-② 前年比較に診察依頼は増加。入院目的、検査依頼は減少。
- 資料 1-③ 入院患者の 35.7%が紹介を受けた患者である(前年 36.6%)。
- 資料 1-④ 紹介患者の 79%が地域医療連携室を利用され受診された(前年度同様)。
- 資料 1-⑤

住所地別紹介患者数では伊丹市、宝塚市、川西市の順となっている。

2) 救急医療の提供について

資料 2 に従って説明

前年度と比較して、救急搬送数、入院患者数および入院化率は増加している。

3) 地域の医療従事者に対する研修について

資料 3 に従って説明

地域医療従事者研修会は 31 回開催した。院内の出席者はのべ 2230 名、院外からは 454 名。

4) 開放病床の運用実績について

資料 4 に従って説明

前年と比較して利用率は 9.6%と減少した。

5) その他

・マンモグラフィの件数について、件数が年々減少傾向にあるが、これは市内開業医においてマンモグラフィ検査ができるようになったことが減少の原因となっているのか。

→検査件数減少についてはご意見のとおりであるが、手術件数としては増加している。

・市立伊丹病院は年々救急の件数が増加しているが、それによる先生方の疲労などは大丈夫か、またそれに関する対処について伺う。

→医師の数は変わってないが、この 1 年間、救急に関し、積極的に受け入れるよう医師に対して言ってきたことが、件数増加となり、お断り件数の減少につながったと思われる。また、救急に関する検討会もあり、そこで症例を検討していることも件数増加につながっているのではないかと思っている。私自身、地域医療機関を訪問した際、救急患者を受け入れていただきたい時に受け入れていただくのが一番助かると言ったお言葉をお聞きましたので、積極的に受け入れるよう意識してきたことが結果として数値に表れたのではないかと思っている。また、医師に対しては特別な対処を行ってはいないが、現在のところ特に問題はない。

→お断りした件数の推移を申しますと、平成 25 年度 1749 件、平成 26 年度 1580 件、平成 27 年度 1229 件、平成 28 年度 797 件、平成 29 年度 725 件と年々減少している。

・宝塚市立病院の消化器内科が縮小し、救急等が十分でない部分を市立伊丹病院で対応いただきたくご協力をお願いしたい。

・伊丹市歯科医師会病診連携協議会において、歯科医師会会員からの要望等があり、事業管理者病院長、閔副院長、太田歯科口腔外科主任部長のご協力により、昨年「医歯病診連携勉強会」を発足することができた。伊丹市歯科医師会に市立伊丹病院の医科の先生にお越しいただき、テーマに沿ってご講演いただいている。第 3 回目は、8 月 21 日に感染に関するご講演を木下先生に依頼している。会員から非常に好評でこの場をお借りして感謝と御礼を申し上げたい。今後も継続して参りたく存じますのでご協力をお願いしたい。

■ 閉会のごあいさつ

本日はお忙しい中ご出席くださり誠にありがとうございました。昨年度もみなさまには大変お世話になり、お蔭様できさほどご報告申し上げましたように地域医療支援病院としての条件をクリアすることができました。また、昨年 10 月に日本医療機能評価機構の審査を受けましたが、幸い大きな指摘事項もなく認定されました。とくに地域連携に関しては S 評価をいただきました。これもひとえに本委員会の委員のみなさまのご支援の賜物であり感謝申し上げます。

この場をお借りして今年度の市立伊丹病院の取組みをご紹介します。3 テスラの MRI が導入され 5 月から本格的に稼働いたします。従来の 1.5 テスラの MRI に比べてより精緻な画像を得ることができますので、より質の高い診断が可能になり、しかも検査時間を短縮することもできますので、1.5 テスラの MRI と使い分けながら、より質が高くかつ効率的な診療を目指します。同じく 4 月からリハビリテーション科を新設しこれまで以上に患者さんの早期回復・早期退院をサポートしてまいります。糖尿病内科はこれまでより甲状腺などの内分泌疾患、高尿酸血症や脂質異常症などの代謝性疾患の患者さんも診療していただきましたので、診療対象がわかりやすいように 4 月に糖尿病・内分泌・代謝内科と名称を変更しました。昨年から医科の臨床研修医が 10 人に増員されました。今年も新たに医科 10 名と歯科 1 名の臨床研修医を迎えることができました。当院にとっては初めて医科臨床研修医 20 人という体制となりました。優秀な医師になってくれるよう心技体とも鍛えてまいります。みなさまには地域医療の研修でこれまで以上にご負担をお願いすることになりますが、何卒ご支援のほどをお願いいたします。

本日は本当にありがとうございました。今後とも市立伊丹病院へのご支援のほどをお願い申し上げます。閉会のご挨拶とさせていただきます。

■ 謝辞

この度は「平成 30 年度第一回市立伊丹病院地域医療推進支援委員会」にご参加頂き、有意義なご検討に加え、適切なご意見を賜りありがとうございました。本委員会が無事に終了できましたことに対して、病院を代表して篤くお礼申し上げます。

さて、当院のような規模の急性期病院では、厚労省の方針が示すように大型化しなくては経営的に立ち行かなくなります。このような社会的状況から藤原伊丹市長が当院の病院機能を強くし、三次救急医療も可能な高度急性期病院を目指してくれました。

現在、近畿中央病院との間で連携の在り方について協議するとのご合意に至っております。両病院がどのように連携すれば、阪神北圏域に必要とされる医療を安定的、継続的に提供できるのかを検討する予定です。

当院が阪神北圏域の一病院として、高度急性期病院を目指していることをご理解いただき、本院の地域医療に対する継続したご支援を宜しくお願い申し上げます。

別紙のとおり「平成 30 年度第 1 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として作成する。

作成者 平成 30 年 5 月 25 日 常岡 豊 印

別紙のとおり「平成 30 年度第 1 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として確認する。

議事録署名人 平成 30 年 5 月 29 日 飯田 良治 印

議事録署名人 平成 30 年 5 月 30 日 辻 博夫 印